

「再び、信州へ」

2014年08月19日

8月17日、再び信州に行って来た。長野県南佐久郡の林の中に建てたログハウスで暮らしている山本将信牧師と、佐久教会の説教応援を依頼された鈴木正三牧師が、信州で会うので、私も誘われ、旧交を温める再会を、十数年ぶりで果たした。牧師として生きてきた仲間だから、少し語るだけで、喜びと苦しさが共有できて、本当に楽しかった。

山本牧師は神学校の同級生で、寮でも同室だった。五十数年来の友人で、私の苦労も山本牧師の忍耐も互いに知り合ったツーカーの間柄である。彼は「出会い」の名人で、一度会うと、魅力にひき寄せられ、親しい友になる。またタフガイで、伝道、牧会はもとより、休耕地を借りて、人を集め、農作物を大量に作付け、収穫し、山谷などに贈り届けている。去年の4月に隠退したが、癌に侵され、手術を受けた。順調に回復しているようだ。

鈴木牧師は一年先輩で、神学生時代は顔を知っているくらいであったが、横浜に来てから、親しくなり、時折飲み交わす間柄になった。富坂キリスト教センターで長く主事をし、学者たちを集め時代の諸々の問題を捉え、解説する30冊もの本を出している。世界を巡り、各国のキリスト教界の事情に通じている。ボンヘッファーの研究者で『キリストの現実に生きて ナチズムと戦い抜いたボンヘッファー神学の全体像』の好著を上梓している。現在、協力牧師として、活躍している。

佐久平の駅で待ち合わせ、山本牧師のログハウスに行き、炭火で焼いた鮎とトウモロコシ、ソーメンをご馳走になった。彼は、料理はお手の物である。それから、源泉かけ流しの温泉付きのビジネスホテルに行き、露天風呂を楽しんだ。夜は、「しし鍋」をつつきながら、久しぶりの生ビールをいただいた。

50年近く牧師をしてきたので、さまざまな経験がある。互いに経験を語り合った。まずは、失敗、挫折談である。失敗、挫折の渦中にある時は、顔面蒼白であったが、今は客体化して、笑いながら話せることは幸いである。そして、人は失敗、挫折から、間違いなく学んでいく。もう一つは、死にゆく人との別れから多くを学ばされる。

精神障がい者に対応する苦慮も多く経験する。現代は精神的に病む人が限りなく多いということである。過激に変化する社会に、心優しい人々は適応していけない。また、最近の精神障がいの医学的分類はあまりに多様になって、ついていけない。私は、医学が急速に進歩しているのに、精神病の医療が遅れているのではないか、患者を癒し、解放する医薬、医療がほしいと、いつも願っている。

日本基督教団の牧師であるから、現在の教団のあり方に関心を持つことは当然である。狭い信仰的真理だけを掲げ、他を受け入れない執行部の教団運営は、教会を貧しくしていくのではないかと案じる。

イラク、シリア、パレスチナ、イスラエル、ウクライナ、ソ連、北朝鮮、中国などでの、戦闘や、テロとの戦いは止むことがない。米国のダブルスタンダード（二重基準）にあきれるが、これを批判させない横暴に怒りを覚える。

話は尽きなかった。神学生時代のように、12時過ぎまで語り合い、青春時代を取り戻すような時間を楽しんだ。ただ、行動に迅速さがなくなったこと、固有名詞が口に出てこないことなど、年を重ねたというのが確かな現実である。